



1. 第9回 ITER 理事会をカダラッシュにて開催

2011年11月17, 18日, 第9回 ITER 理事会が仏カダラッシュにて開催され, 7つの ITER 加盟極の代表が一堂に会しました。

ITER 計画のスケジュールについて, ITER 機構は, ファーストプラズマを2019年11月から1年遅らせ2020年11月とするが, 核融合反応開始は2027年を維持する作業スケジュールを策定しました。理事会は, このスケジュールおよびコストが, 2010年7月のベースライン合意の範囲内であることを確認しました。

理事会は, ITER 建設全体の調達価額の71.5%に相当する60の調達取決めがすでに締結されていることを確認しました。また, 理事会は, 予算の上限値を守るために ITER 機構によって提案されたコスト戦略を承認しました。

2年に一度実施することになっている ITER 機構の運営評価の結果とともに, 運営を改善するための様々な提案が報告されました。これらの提案に対する ITER 機構の取り組み状況については, 次回合会で報告される予定です。

エフゲニー・ベリホフ氏(露)の ITER 理事会議長, ギュンス・リー氏(韓)の運営諮問委員会(MAC)議長, およびワン・シャンシー氏(中)の科学技術諮問委員会(STAC)議長としての任期が本年末に満了することに伴い, 理事会は高津英幸氏(日), ランジャイ・シャラン氏(印)およびホアキン・サンチェス氏(欧)をそれぞれの後任として選出しました。理事会は, 退任する議長達の貢献に対して感謝の意を示すと共に, 新しい議長達を歓迎しました。



図1 第9回 ITER 理事会議事風景



図2 日本の理事会メンバー(写真提供: ITER 機構)



図3 各極の ITER 理事会メンバー等

2. ITER 機構における博士課程修了研究者の公募

現在 ITER 機構では、モナコ公国とのパートナーシップ協定に基づき、博士課程修了研究者を ITER 計画の参加国及びモナコ公国から募集中です。募集案内は ITER 機構ホームページに掲載されています。我が国は、ITER 計画の参加国であり、我が国の国籍を有する方は、本公募に対して応募することができます。

今回は2008年3月、2009年12月に続く第3回目の募集となります。核融合プラズマ物理から炉工学までの幅広い専門分野を対象とし、5名の若手研究者を募集しています。任期は2年で、採用されますと専門職員（P1グレード）となり、ITER 機構から給与が支給されます。応募資格は、2009年1月1日以降に博士号を取得した方、あるいは着任までに取得見込みの方となります。応募締め切りは2012年1月31日です。応募の詳細や最新の情報については下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.iter.org/monaco2012>

(日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門)



図4 ITER 機構における博士課程修了研究者の公募2012 (図提供：ITER 機構)。